



# ルサカ小史

飯尾 彰 敏

20世紀初め、鉱山開発の進展に伴ってベイナーナショナルランド鉄道はピクトリアフォールズからブロークンヒル(カブエ)へ伸ばされ、1905年現在のルサカ駅に鉄道駅が開設された。それ以後、駅を中心に商店やホテル(ルサカホテル)など街として発展していった。この頃のルサカは、農業にとって有力な集荷場であった。

ルサカは、L s a k a s または L u s a a k a s という小さな村として知られていた。ルサカの名前は、現在の駅近くに住んでいたレンジェ族の酋長の名で、「象狩りの名人」と称されていた。

1910年頃地方権の確立の要求が高まり、この地の実権を握っていた英国南アフリカ会社は1913年にルサカに地方権(local authority)をLusaka Village Management Boardとして与えた。そして、1929年にTownshipの地位を獲得した。

首都としての歴史は、東部州のChipata(Fort Jameson)と南部州のKalomoがそれぞれノース・イースタンローデシアとノース・ウエスタンローデシアの行政の中心地であった20世紀初頭までさかのぼる。その後ノース・イースタンローデシアは、1907年に首都をリビングストンへ移した。1911年、両国は合併しノーザンローデシアとなった。そのとき、首都をルサカに移す計画が決定された。

首都の選考にあたって、ロンドン大学都市及び地方計画教授 S. D. Adshad はキトウェ、ルアンシャ、ンドラ、カブエ、チランガ等の数々の都市を調査した後、ノーザンローデシアの地理的中心地としての利便性、水資源及び排水条件気象条件等のより適当であるルサカを1931年に首都として選んだ。

新首都ルサカは、S. D. Adshad, P. J. Bowlingらによって1933年に計画人口(ヨーロッパ人のみ)5000人(1931年に470人のヨーロッパ人が住んでいた)、最終計画人口20000人として計画された。S. D. Adshadは、計画の際Ebenezer Howardの田園都市構想(Garden City concept)を取り入れ、ロンドン郊外のLetchworth, Welwyn Garden cityに続くゆとりある豊かな都市として計画した。

最終的に首都は、1935年5月に移転し、Lusaka Management Boardは1936年1月1日に新首都の行政を引き継いだ。1953年1月1日にLocal authorityはMunicipal Boardに昇格し、その年の3月1日にルサカは市となった。そして、1954年4月に最初の市長選挙が行なわれた。

1964年の独立以降、ルサカはザンビアの行政、経済、農業の中心として発展した。1980年の地方行政法の改定によってルサカは、Urban District Councilとなり市長職が廃止されDistrict Governorが置かれた。

1980年の国勢調査によるとルサカの人口は約54万人(現在は推定86万人-年間平均増加率を6.8%とした場合)、全人口の約10%がルサカに住んでいる。ザンビアはアフリカの国々の中でも最も都市化された国で、全人口の43%が都市住民であり、そのうち22%がルサカに住んでいる。

## 《参考文献》

Geoffrey J. Williams (1984) The Guide to Lusaka. Zambia Geographical Association Occasional Study No. 12

----- (1986) Lusaka and Its Environs. A Geographical Study of a Planned Capital City in Tropical Africa. Zambia Geographical Association Handbook Series No. 9

City of Lusaka Street Plan. Survey Department Lusaka (1983/1984)